使用説明書

ご使用前に
必ずお読みください。

お買い上げありがとうございます

ミノルタ α-3Xiクォーツデートは、最新の技術を導入しながら、一眼レフが初めての方にも気軽に写真の楽しさを味わっていただけるように開発された、軽量・コンパクトでやさしいオートフォーカス一眼レフカメラです。

- このカメラの機能を十分に活用していただくためにも、この使用説明書をご使用前に必ずお読みください。また、お出かけの際には、カメラと一緒にお持ちになると便利です。
- お読みになった後は、保証書、アフターサービスのご案内とともに大切に保管してください。
- 大切な撮影の前には、必ず試し撮りをして、機器が正常に機能することをご確認ください。万一、このカメラの使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の保証についてはご容赦ください。

この使用説明書では…

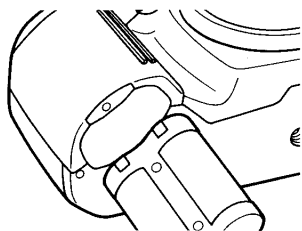
- α-3Xiではすべてのミノルタ αレンズが使用できますが、本文中ではAFズームXiレンズ28-80mmを基本に説明しています。
- 文中の はこのカメラをご使用になるときのアドバイス、 は注意事項です。
- 一眼レフカメラの使い方に慣れていない方は、とりあえず「撮影の準備をしましょう」「さぁ、撮影です」の2章をお読みください。その他の章については、必要に応じてご覧くださるとよいでしょう。また、69ページからの注意事項もよくお読みください。

ミノルタ α-3Xiクォーツデートの機能を活用していただくためには、当社独自のノウハウによりボディ特性に適合するように設計・製造管理されているレンズおよび付属品の使用をおすすめいたします。当社製品以外の付属品を単に装着できるというだけでお使いになる場合、いかなる事象が生じるかについては予想いたしかねます。

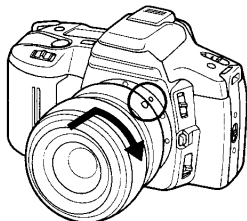
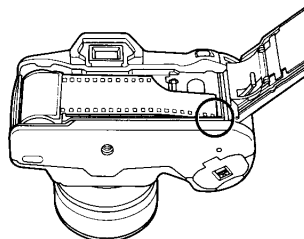
撮影早わかり

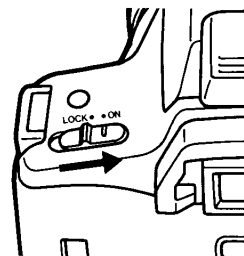
（詳しくは本文をご覧ください。）

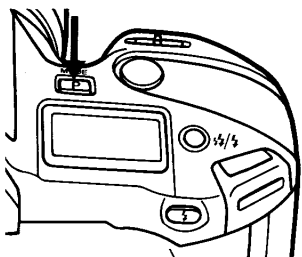
1 電池を入れます

電池（2CR5 1個）を、電池室のふたの表示にしたがって入れます。

2 レンズを取り付けます

レンズとボディの2つの赤点を合わせてはめ込み、カチッとロックがかかるまで時計方向に回します。

3 フイルムを入れます

フイルムの先端を赤いマークに合わせ、裏ぶたを閉じます。

4 電源を入れます

メインスイッチをONにします。

5 全自動にします

プログラムセットボタンを押します。

6 ピントを合わせます

写したいものが[　]に入るように、カメラを構えます。

7 撮影します

シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

主な特長

小型・軽量

- 本体重量は約435gと小型・軽量で、どこにでも気軽に持ち運べます。

簡単な操作

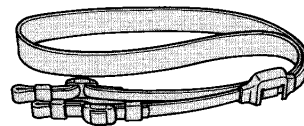
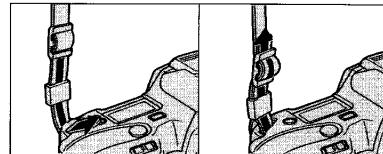
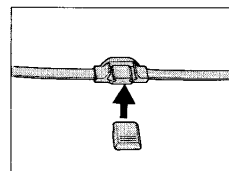
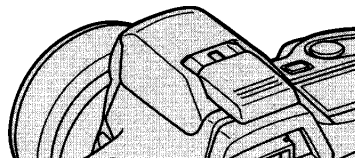
- ゼロタイムオートにより、カメラを構えただけで撮影前の準備がすべて行なわれます。(ピント合わせ・露出設定・ズーミング)
- 動体予測フォーカス制御により、動いているものにもぴったりピントが合います。
- フラッシュが必要かどうかをカメラが判断し、必要時には内蔵フラッシュが自動的に発光します。

上級者譲りのテクニック

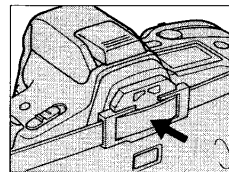
- 上級者のノウハウを満載したエキスパートプログラムを使用しています。
- 撮影者の好みに応じて、絞りやシャッター速度を自由に変えることもできます。

標準付属品

以下のものが入っています。ご確認ください。

- **ネックストラップ**

取り付け方：反対側も同様に取り付けます。

- **アクセサリーシューキャップ**

図のように
ストラップに
収納できます。

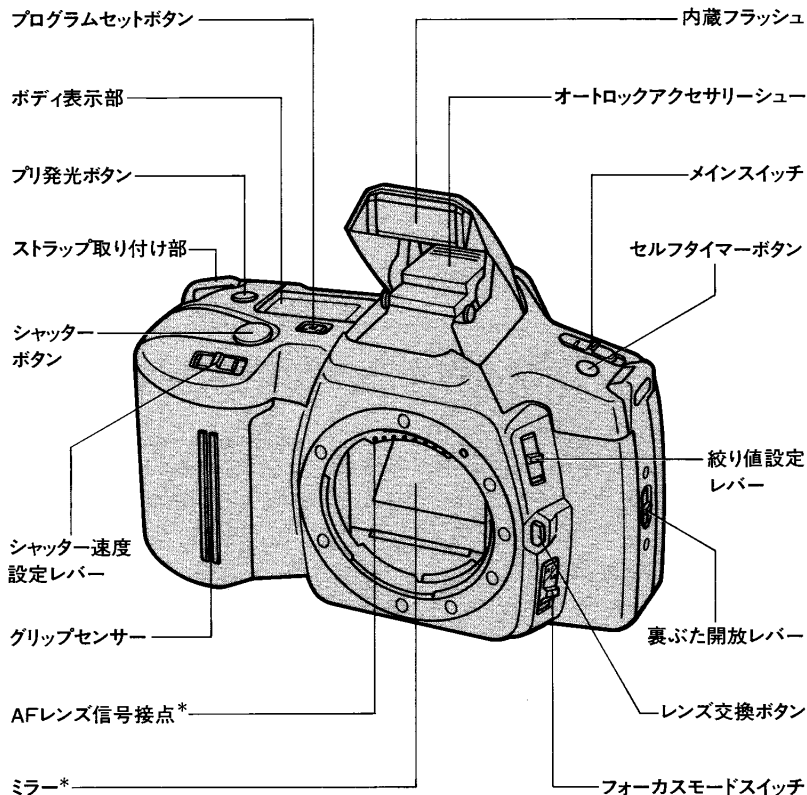
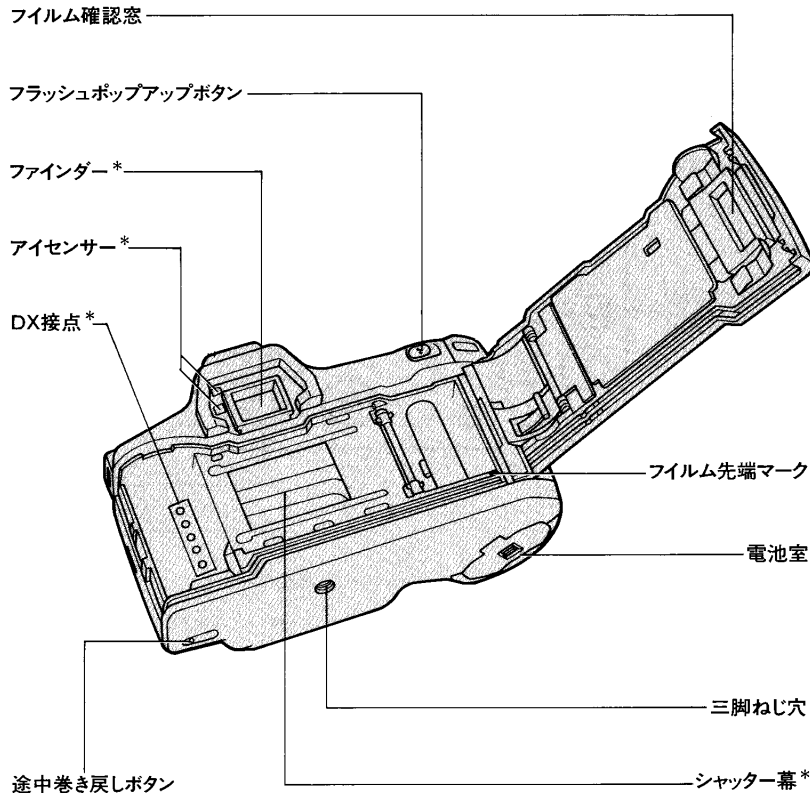
- **アイピースキャップ**(ストラップについています)

ファインダーからの逆入光を防ぐため、
セルフタイマー撮影時などに
ご使用ください。

取り付け方

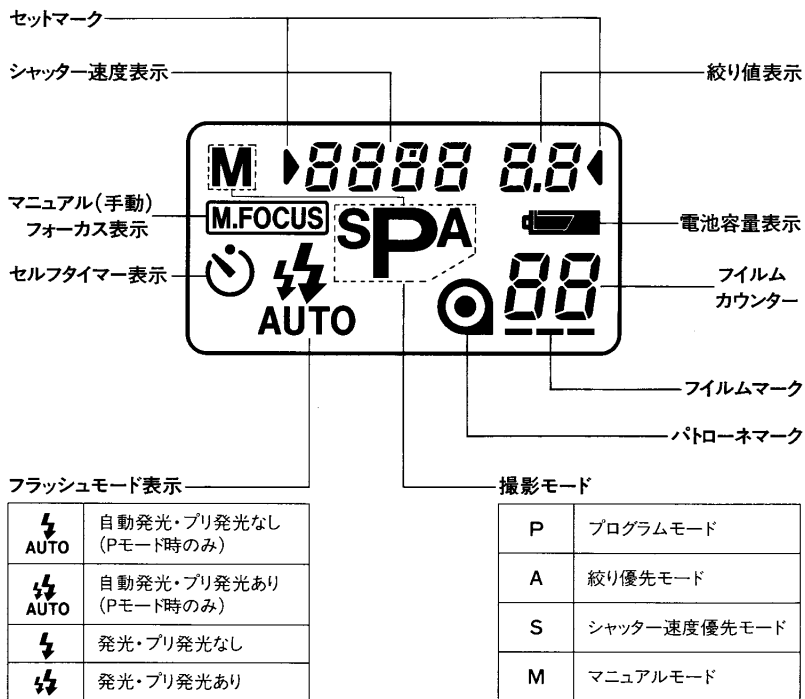
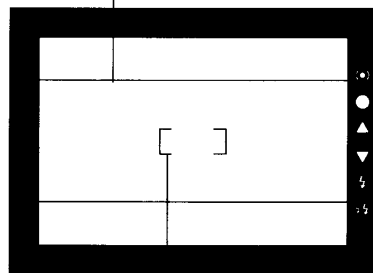
- 使用説明書
- 仮保証書(アンケートカード)
  アンケートにご記入の上、記載の住所までお送りください。
- アフターサービスのご案内
- リチウム電池2CR5 1個

各部の名称

ボディ

＊傷つけたり、汚したりしないでください。

ボディ表示部

ϟ AUTO	自動発光・プリ発光なし (Pモード時のみ)
ϟϟ AUTO	自動発光・プリ発光あり (Pモード時のみ)
ϟ	発光・プリ発光なし
ϟϟ	発光・プリ発光あり

P	プログラムモード
A	絞り優先モード
S	シャッター速度優先モード
M	マニュアルモード

ファインダー表示部

緑ランプ(フォーカス表示)

(●)点灯	ピントが合っています。
● 点灯	ピントが固定されています。 (静止被写体の場合)
● 点滅	ピントが合いません。

オレンジランプ(露出警告表示)

▼ ▲▼ ▲ 点灯	被写体が適正露出かどうか をお知らせします。 (Mモード時のみ)
▲▼ 点滅	被写体を適正露出にするこ とができません。
▼ 点滅	フラッシュが発光するとき… フラッシュが充電中です。
	フラッシュを禁止しているとき… 手ぶれしやすいので、フラッシ ュまたは三脚の使用をおすす めします。(P、Aモードのみ)

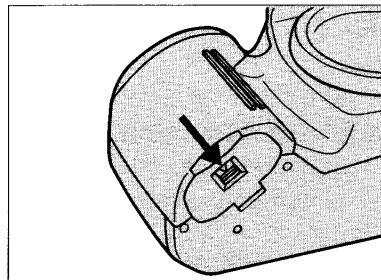
赤ランプ(フラッシュ表示)

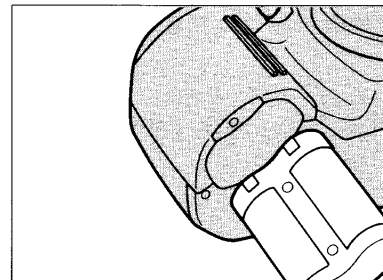
ϟ 点滅	フラッシュの充電が完了して います。(プリ発光なし)
ϟϟ 点滅	フラッシュの充電が完了して います。(プリ発光あり)
ϟ または ϟϟ すばやく点滅	フラッシュ発光後、適正露出 が得られたことをお知らせし ます。

撮影の準備をしましょう

ここでは、撮影する前に準備しておくことや
覚えていただきたいことを説明します。
カメラを実際に手に取って、さあ始めましょう。

電池を入れます

【使用する電池の種類：6Vパックリチウム電池 2CR5】

電池室のふたを開けます。

● 電池室開放レバーを矢印の方向へ押します。

電池室のふたの表示にしたがって、電池を入れます。

電池室のふたを閉じます。

電池容量をチェックします

メインスイッチをLOCKからONにするたびにカメラが電池容量をチェックし、ボディ表示部に表示します。
何も表示されない場合は、電池の向きを確認してください。

①
電池容量は充分にあります。(4秒点灯)

②
新しい電池を用意してください。(4秒点灯)

③
新しい電池と交換してください。(点滅)
④の状態までは動きます。

④
新しい電池と交換してください。(点滅)
シャッターは切れません。

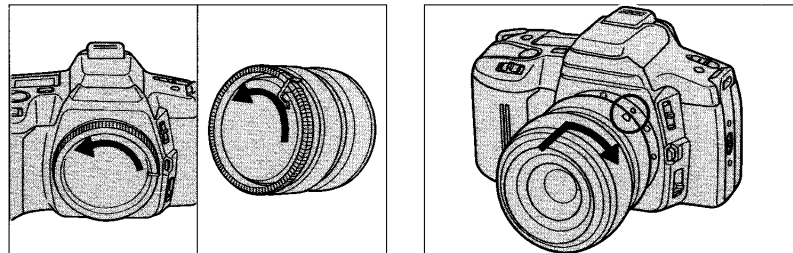
● ④は、メインスイッチLOCKのときも表示されます。

撮影可能本数

(当社試験条件による:常温20℃、24枚撮りフイルム、新品電池使用)

フラッシュなし	約60本
フラッシュ使用時(使用率50%)	約25本

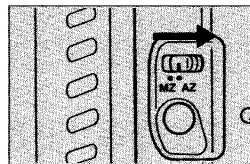
レンズの取り付け・取り外し

取り付け

ボディキャップ、レンズの後ろキャップを外します。
● 矢印の方向に回して外します。

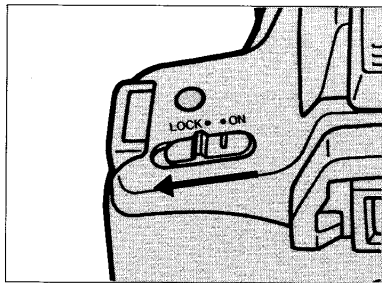
レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み、カチッと音がするまで矢印方向に回します。

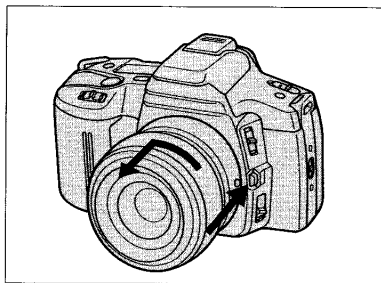
AFズームXiレンズをご使用の場合

メインスイッチがONの状態で取り付けると、レンズは自動的に特定のピント位置と焦点距離になります。オートフォーカス/マニュアルフォーカスの切り替えはオートフォーカスになります。

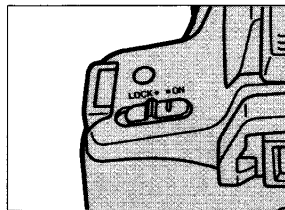
AFズームXiレンズ(28-80mm F4-5.6以外)をご使用の場合

取り付ける前に、AZ/MZスイッチをAZにしてください。このカメラではMZのままでは使用できません。

● レンズが正しく取り付けられていないときは、メインスイッチをONにするとボディ表示部に"M. FOCUS"と表示されます。

取り外し

メインスイッチをLOCKにします。

●AFズームXiレンズは最もコンパクトな状態になります。

レンズ交換ボタンを押したまま、レンズを図の方向に止まるまで回し、取り外します。

撮影の前に

メインスイッチについて

メインスイッチは、LOCKとONの切り替え式です。

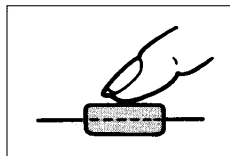
LOCK ……カメラの電源が切れ、すべての作動が停止し、不用意にシャッターが切れるのを防止します。

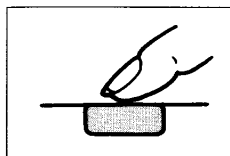
ON …………カメラの電源が入り作動します。また、ONにすると同時に電池の容量のチェックを行ないます。

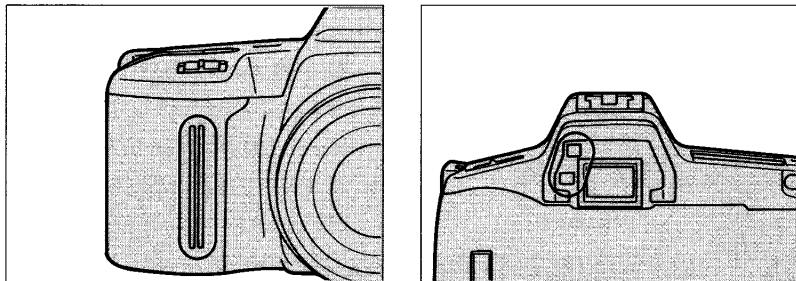
 ●撮影が終わったら、必ずスイッチをLOCKにしてください。

シャッターボタンについて

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書では、ここまで軽く押すことを"半押し"と言います。

シャッターボタンは、この半押しの状態と完全に押し込んだ状態のときで働きが違います。

半押しすると

●写すものが止まっている場合、ピントと露出が固定され、緑ランプ ● が点灯します。フォーカスロック時(P.31参照)に使用します。

完全に押し込むと、シャッターが切れ撮影されます。

ゼロタイムオート

メインスイッチをONにした後、グリップセンサーに触れるようにカメラを持ってください。そのままファインダーをのぞくと、ファインダーのそばにあるアイセンサーがそれを検知し、カメラが自動的にズーミング*、ピント合わせ、露出(シャッター速度と絞りの組み合わせ)の決定を行ないます。この機能をゼロタイムオートと言います。

* 焦点距離を変えて、被写体を大きくしたり小さくしたりすること。AFズームXiレンズ使用時のみ、自動的にズーミングが行なわれます。この機能をオートスタンバイズーム(ASZ=Auto Standby Zoom)と言います。詳しくはP.40をご覧ください。

● 手袋をはめたままカメラを持つと、グリップセンサーに触れていても、ゼロタイムオートは作動しません。この時はシャッターボタンを半押ししてください。ピント合わせと露出の決定が行なわれます。ただしオートスタンバイズームは作動しません。

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりやすいので、図のようにカメラをしっかりと構えてください。

横位置

縦位置

● 片目をカメラにぴったりつけます。
● 脇をしめます。
● 左手は、レンズを支えるようにします。

● 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。
● 建物や壁にもたれたり、机などに肘をつくようにすると、効果があります。

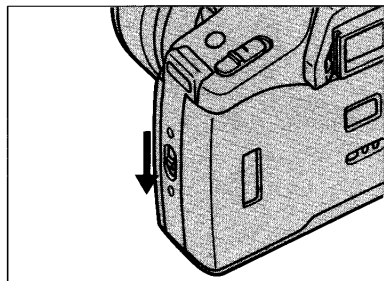
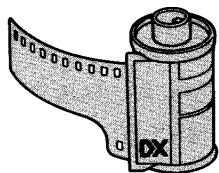
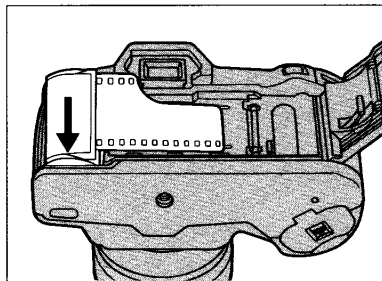
手ぶれしやすい場合には、ファインダー内の▼が点滅してお知らせします。
暗い場所でフラッシュなしで撮影する場合(シャッター速度が遅くなる)や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は、三脚を使って撮影してください。また、以下のような方法もあります。

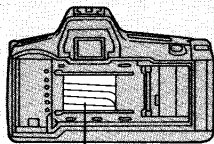
● フラッシュを使う
● 高感度フイルム(ISO数値の大きいフイルム)を使う

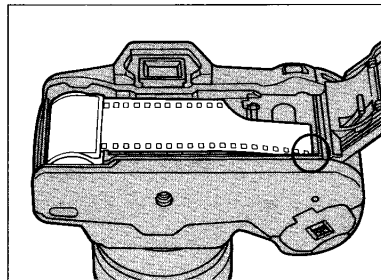
※フイルム感度が高くなるほど写真の粒子は粗くなります。

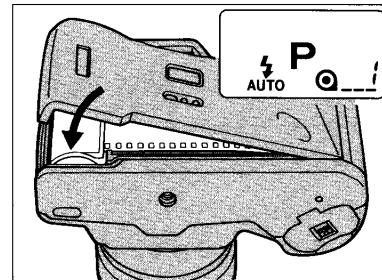
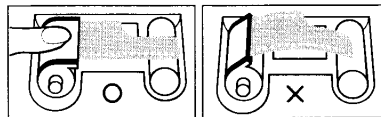
フイルムを入れます

DXコード付きのフイルムの場合、フイルム感度は自動的にセットされます。

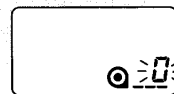
● DXコードのないフイルムはISO100にセットされます。

裏ぶた開放レバーを下げて裏ぶたを開けます。

フイルムを図のように入れます。

● シャッター幕には、手やフイルムの先が触れないように注意してください。
● フイルムの出し入れは、直射日光を避けて行なってください。
● 初めてカメラをご使用になるときは、フイルムを入れる前に裏ぶたの内側にある保護シートを取り外してください。

使用フイルム
ISO 25～5000のフイルムが使用できます。フラッシュ撮影の場合は、ISO 25～1000のフイルムをお使いください。

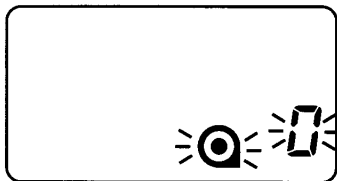
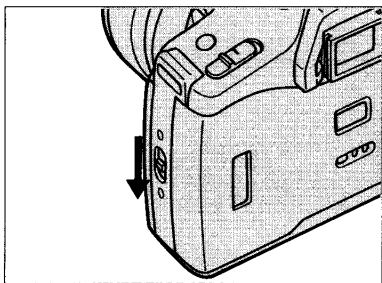
● 裏ぶたを開ける前には、必ずフイルムが入っていないことを確認してください。

フイルムの先端を赤いマークに合わせます。

● フイルムが浮き上がらないようにパトローネを押さえてください。

裏ぶたを閉じます。

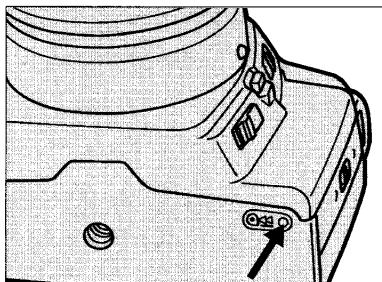
メインスイッチをONにします。

● フイルムが自動的に巻き上げられ、フイルムカウンターに"1"が表示されます。

● フイルムが正しく送られていない場合、フイルムカウンターは0のまま点滅します。このような場合は、もう一度フイルムを入れ直してください。

フイルムの巻き戻し

フイルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

フイルムカウンターが“0”になり、表示が点滅するまで待ちます。

裏ぶたを開けて、フイルムを取り出します。

- 裏ぶた開放レバーを押し下げて裏ぶたを開けます。

フイルムを最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは…

カメラ底面の途中巻き戻しボタンを軽く押します。

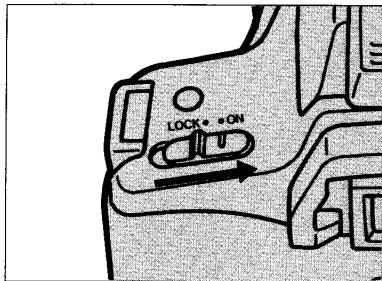
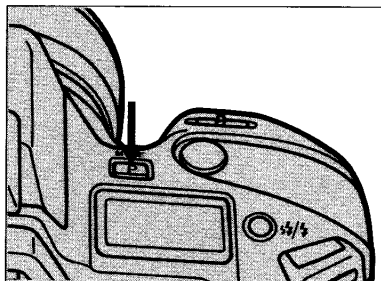
- ボールペンなどの先の細いもので押してください。

フイルムカウンターが“0”になり、◎が点滅しているのを確認してから、裏ぶたを開けて取り出します。

さあ、撮影です

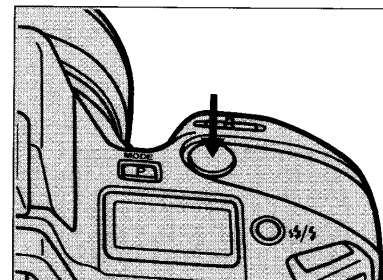
ここでは、いますぐ簡単に撮影が楽しめる、
もっとも基本的な撮影方法について説明します。
基本的と言っても、カメラが被写体の状況を判断して
すべて自動的にセットしますから、
シャッターボタンを押すだけで
簡単にきれいな写真が撮れます。

基本的な撮影

ここで説明している基本的な撮影とは、ピント合わせ、露出の決定、フラッシュの発光、焦点距離の設定などをカメラが自動的に判断して撮影する方法です。シャッターボタンを押すだけでいつでもきれいな写真が撮れます。

メインスイッチをONにします。

プログラムセットボタンを押します。

- プログラムセットボタンを押すと、カメラは全自動に設定されます。(詳しくはP.35参照)

写したいものが[　　]に入るようにカメラを構えます。

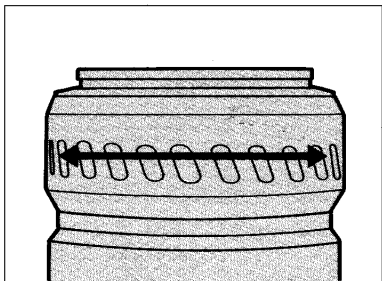
- ピント合わせ、露出の設定、ズーミングが自動的に行われます。
- ファインダー内の緑ランプがピントの状態をお知らせします。
  (●)点灯：被写体にピントが合っています。
  ●　点滅：ピントが合わず、シャッターも切れません。(P.33参照)
- ファインダー一内の ϟ (または ϟϟ)が点滅すると、フラッシュが発光します。(フラッシュに関して、詳しくはP.26を参照してください。)
- ボディ表示部に、カメラが設定したシャッター速度と絞り値が表示されます。

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、フイルムは自動的に次のコマに巻き上げられます。

ズーミングのしかた

取り付けるレンズの種類によって、ズーミング(被写体の大きさを変えること)の方法が異なります。

AFズームXiレンズを取り付けたとき

ズームリングを軽く回すだけで、電動でのズーミング(パワーズーム)ができます。

レンズのズームリングを回して、被写体を希望の大きさにします。

● ズームリングを大きく回せば速く、小さく回せばゆっくりズーミングされます。

希望の大きさになれば、ズームリングから指を離します。

● ズームリングがもとの位置に戻り、ズーミングが停止します。

● AZ/MZスイッチの付いているレンズ使用時は、AZに設定してください。

AFズームレンズを取り付けたとき

電動によるパワーズームはできません。

手動によるズームはできます。ズームリングを回して、希望の大きさにしてください。

フラッシュについて

フラッシュが必要なときは、シャッターボタンを半押しすると自動的にフラッシュが上がり、撮影時に発光します。

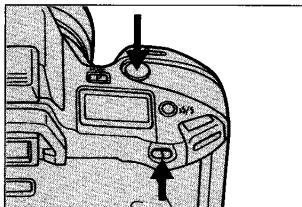
● フラッシュが発光する場合は、ファインダー内の ϟ または ϟϟ が点滅します。

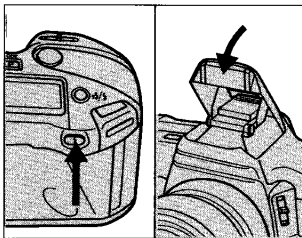
● フラッシュの充電中はオレンジ色の▼が点滅します。ϟ または ϟϟ マークが点滅するまでお待ちください。

● 撮影後、適正露出が得られると、ファインダー表示部の ϟ または ϟϟ マークの点滅が速くなります。

● 暗いところでは、シャッターボタンを半押しするとフラッシュが発光することがあります。これはピント合わせのためのAF補助光です。(詳しくはP.39参照)

● フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られて、写真の下部に影ができることがあります。

フラッシュを必ず発光させるには(強制発光)

フラッシュポップアップボタンを押しながら撮影すると、フラッシュを必ず発光させることができます。

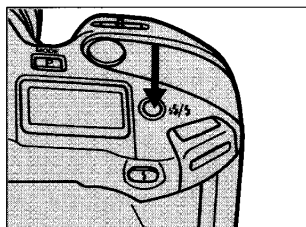
フラッシュを発光させたくないときは(発光禁止)

フラッシュポップアップボタンを押しながらフラッシュを押し下げてください。

● ボディ表示部のフラッシュモード表示が消えます。

● 自動発光に戻すには、フラッシュポップアップボタンまたはプログラムセットボタンを押してください。

● ファインダー内の▼が点滅すると、シャッター速度が遅くなります。手ぶれしやすいので、三脚の使用をおすすめします。

目が赤く写るのを軽減するためには(フラッシュプリ発光)

人物をフラッシュ撮影する場合、まれに目が赤く写ることがあります。撮影の直前に少光量のフラッシュを発光(プリ発光)すると、この現象を軽減することができます。

プリ発光ボタンを押すごとに、次のようにプリ発光の有無が切り変わります。

AUTO プリ発光なし
フラッシュは撮影時に一度だけ発光します。

↓ ↑

AUTO プリ発光付き
本発光の前に数回プリ発光が行われます。

フラッシュ調光距離

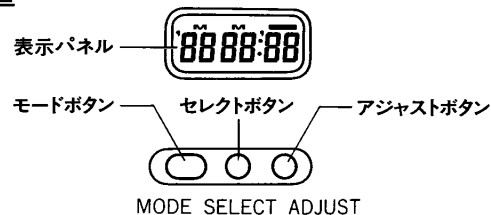
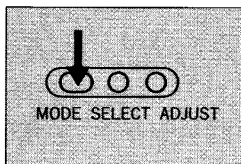
Pモードでの内蔵フラッシュ調光距離(フラッシュ光の届く範囲)は、以下を目安にしてください。(ISO100のフイルム使用時、詳しくはP.46参照)

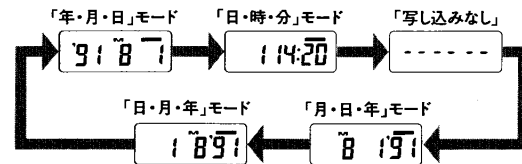
焦点距離(絞り値) ＼ レンズ	28-80mm F4-5.6	80-200mm F4.5-5.6
28mm (F4)	1.0-3.0m	—
80mm (F5.6)	1.0-2.1m	—
80mm (F4.5)	—	1.0-2.7m
200mm (F5.6)	—	1.0-2.1m

※ISO400のフイルム使用時は、遠側の調光距離はこの表の値の2倍になります。

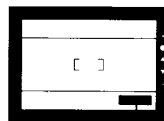
- 内蔵フラッシュを使って1m未満で撮影すると、写真に影ができることがあります。
- 内蔵フラッシュ使用時は、使用できるレンズに制限があります。詳しくはP.66をご覧ください。

日付け・時間の写し込み

表示とボタンの配置

写し込み方法

モードボタンを押して、写し込みたい日付け、時間を選びます。

- モードボタンを押すたびに、表示は以下のように変わります。

撮影します。

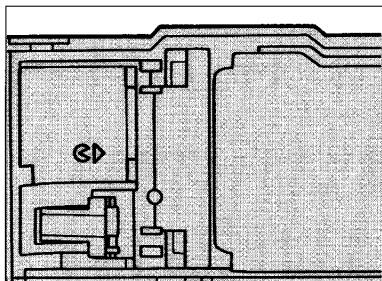
- 撮影後、データ表示パネルの「ー」が約2秒間点滅して、写し込まれたことを示します。

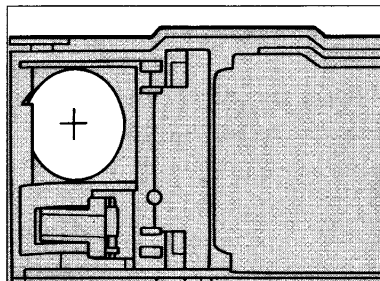
- 撮影時、写し込み位置に明るい色(空や白い壁)があると、文字が読みにくくなることがあります。

写し込み位置

おおよその写し込み位置

- 2019年12月31日までの日付けが記憶されています。
- ISO32～1600のフイルムをご使用ください。それ以外のフイルムでは、きれいに写し込めないことがあります。
- 写し込みの濃度は、フイルムの種類や温度などの条件によって異なります。
- 温度が0℃以下または50℃以上になるところでは、きれいに写し込めないことがあります。
- 複写用フイルム、ポラロイド35mmスライド用フイルム、赤外線フイルムなどは、一般用フイルムと違うため、使用しないでください。

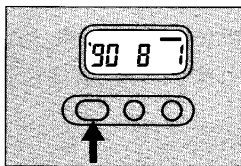
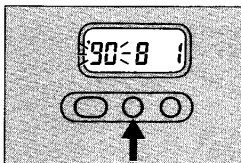
データ用電池の交換　使用する電池：CR2025 1個

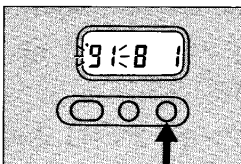
写し込んだ文字が薄かったり、表示全体が点滅している場合は、電池を交換してください。

電池室のふたを開けます。

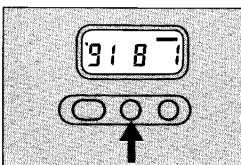
- ▷の方向に押して、手前に引きます。

電池を＋側を上にして入れます。

ふたを閉めます。

- 右部を差し込んでから、左側へ押し込みます。

日付け・時間の修正

モードボタンを押して、修正したい表示を選びます。

セレクトボタンを押して、修正したい数字を点滅させます。

- 表示部の「—」が消え、修正中であることを示します。
- セレクトボタンを押すたびに、年→月→日または時→分→秒(:)の順に点滅する数字が変わります。
- 点滅している数字の修正の必要がなければ、もう一度セレクトボタンを押してください。

アジャストボタンを押して、正しい数字に合わせます。

- アジャストボタンを押し続けると、数字は連続的に変わります。
- 秒を時報に合わせるには、(:)を点滅させ、時報に合わせてアジャストボタンを押します。

数字の点滅が点灯になるまで、セレクトボタンを押します。

- 表示部の「—」が点灯し、修正の終了を示します。

被写体が画面の中央にないとき

被写体が[　]と重ならないとき、そのままシャッターボタンを押すと左のようにピントの合わない写真ができてしまいます。この場合、次のフォーカスロック、またはフォーカスホールドのいずれかでピントを固定してください。

フォーカスロック

ピントを合わせたいものに[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが固定されます(フォーカスロック)。緑ランプ(●)が●に変わるのを確認してください。

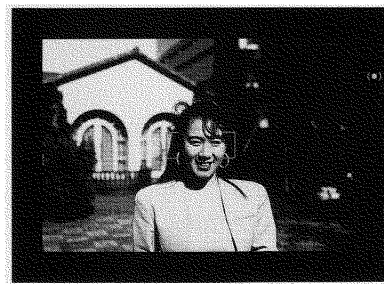
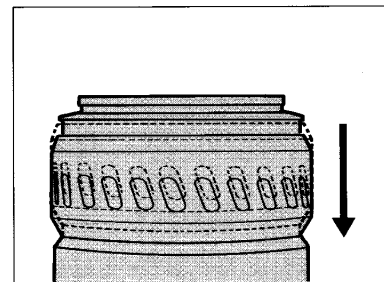
シャッターボタンを半押ししたまま、構図をもとにもどします。

シャッターボタンを下まで押し込んで撮影します。

- シャッターボタンから指を離すと、フォーカスロックは解除されます。
- シャッターボタンを半押しすると、ピントと同時に露出も固定されます。

- 緑ランプ●が点灯しないとき(被写体が動いているときなど)は、フォーカスロックはできません。

フォーカスホールド(AFズームXiレンズ使用時のみ)

前述のフォーカスロックと同様に、レンズの操作でもピントを一時的に固定させることができます。この方法だと、同じピント位置で何枚も撮影することができます。

被写体にピントを合わせます。

レンズのズームリングを手前に引きます。

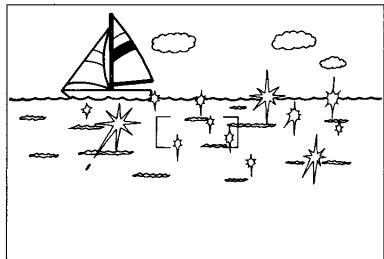
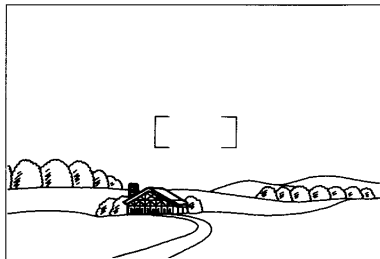
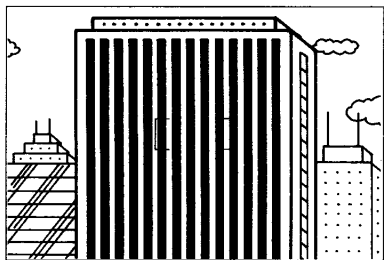
- ピントが固定され、緑ランプ●が点灯します。
- ボディ表示部に"M. FOCUS"と表示されます。
- シャッターボタンから指を離してもピントは固定されています。

ズームリングを手前に引いたまま、構図をもどして撮影します。

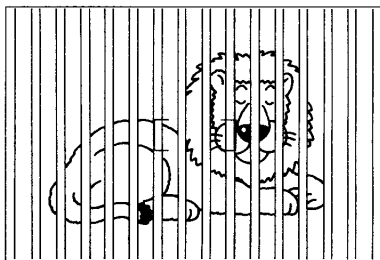
- 撮影後も、ズームリングを引いたままだとピントは固定されています。

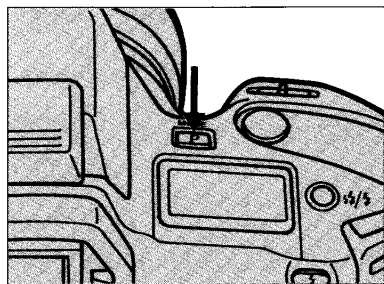
- ズームリングを手前に引くと、ピントと同時に露出も固定されます。
- フォーカスホールドボタン付きAFレンズでも同様にフォーカスホールドできます。

オートフォーカスの苦手な被写体

以下のような被写体は、オートフォーカスでピントが合いにくい場合があります。このような場合はフォーカスロック(P.31)や手動によるピント合わせ(P.37)を行なってください。

太陽のように明るすぎる被写体や、車のボディ、水面など反射している被写体

青空など、明暗差(コントラスト)のない被写体

繰り返しパターンの連続する被写体

遠くと近くに共存する被写体

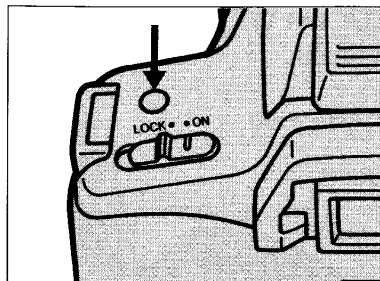
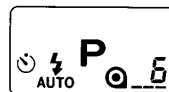
こんな撮影も楽しめます

ここまでの説明だけでも、場面に応じたきれいな写真が撮れます。
が、それで物足りなくなったら?
もっと写真について、カメラについて詳しく知りたくなったら?
そんな方は、この章にお進みください。

プログラムセットボタン

プログラムセットボタンを押すと、カメラは一番基本の状態（全自動）に設定されます。
設定内容は以下の通りです。

機　能	ボタンを押した後の状態
撮影モード	Pモード
フラッシュ	必要時自動発光
ピント合わせ	オートフォーカス

カメラをいろいろなモードに設定した後、元の基本状態に戻したいときはこのボタンを押してください。

- カメラの設定を変更した後でプログラムセットボタンを押すと、その機能だけでなくすべての機能が元に戻ります。
- プリ発光の有無は、プログラムセットボタンを押しても変わりません。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーボタンを押します。
- ボディ表示部にマークが表示されます。

ピントを合わせ、シャッターボタンを押し込みます。
- 約10秒後に撮影されます。
- フラッシュが禁止されていなければ、撮影直前に3回発光してお知らせします。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

撮影直前のフラッシュ発光について

フラッシュ発光が禁止されていなければ、フラッシュが撮影直前に3回発光します。
フラッシュが禁止のときは、この直前のフラッシュも発光しません。フラッシュは必要だけど直前の発光は止めたい場合、プリ発光ボタンを押しながらメインスイッチをLOCKからONにしてください。（同時にAF補助光も禁止されます。P.39参照）もう一度同じ操作をすると元に戻ります。
別のフラッシュを取り付けている場合は、直前にフラッシュのかわりにAF補助光発光部が点滅します。

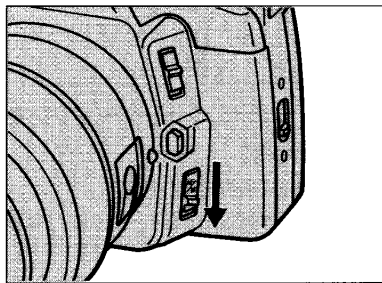
- シャッターボタンを押す前にセルフタイマーを解除するには、もう一度セルフタイマーボタンを押してください。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにしてください。

- いっきにシャッターボタンを押し込まないでください。ピントが合う前にセルフタイマーが作動してしまいます。
- ファインダーから目を離してシャッターを切るときは、アイピースキャップを付けてください。

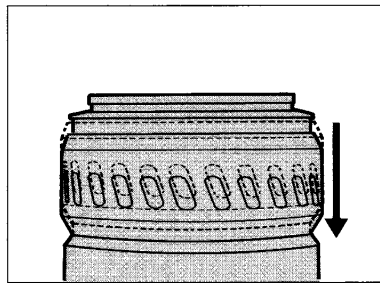
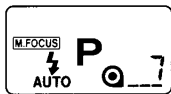
手動によるピント合わせ

オートフォーカスでピントが合わない場合や、ピントを意図的にずらして撮影する場合は、マニュアル(手動)フォーカスを行ってください。

AFズームXiレンズを取り付けたとき

電動でのピント合わせ(パワーフォーカス)ができます。

カメラのフォーカスモードスイッチを1回押し下げます。

- マニュアル(手動)フォーカスに切り替わります。
- ボディ表示部に"M. FOCUS"と表示されます。

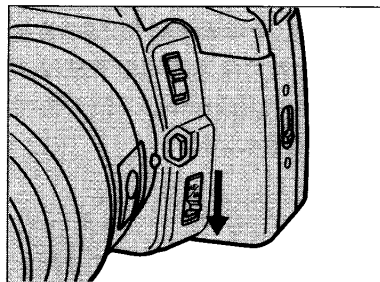
M.FOCUS AUTO P

レンズのズームリングをカメラ側に引きます。

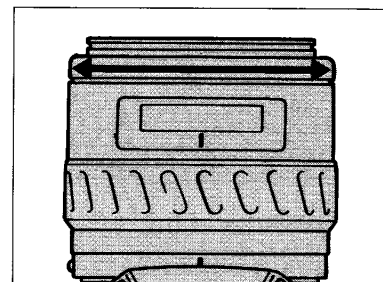
ズームリングを引いたまま左右に回して、被写体がもっともはっきり見えるようにします。

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内の緑ランプ●が点灯して、ピントが合ったことをお知らせします。

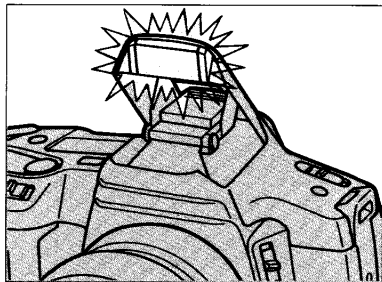
被写体がもっともはっきり見えるところで、ズームリングから指を離します。

AFズームXi以外のαレンズを取り付けたとき

パワーフォーカスはできません。手動でのピント合わせを行なってください。

カメラのフォーカスモードスイッチを1回押し下げます。

- マニュアル(手動)フォーカスに切り替わります。
- ボディ表示部に"M. FOCUS"と表示されます。

レンズ先端のフォーカスリングを回してピントを合わせます。

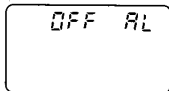
- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ファインダー内の緑ランプ●が点灯して、ピントが合ったことをお知らせします。

AF補助光

被写体が暗い、明暗差が低いなど、ピントを合わせにくい場合は、シャッターボタンを半押しするとAF補助光(フラッシュ光)が自動的に発光されます。AF補助光での測距可能範囲は、約1〜5mです。(50mmレンズ使用時、当社試験条件による)

- AF補助光は、AFマクロズーム3X-1Xおよび焦点距離300mm以上のレンズ(AFズーム100-300mm F4.5-5.6、AFズーム75-300mm F4.5-5.6を除く)では発光しません。
- フラッシュが発光しない状態では、AF補助光も発光しません。

AF補助光の禁止

フラッシュ発光が禁止になっている場合は、AF補助光も発光しません。AF補助光だけを止めたいときは、プリ発光ボタンを押しながらメインスイッチをLOCKからONにしてください。

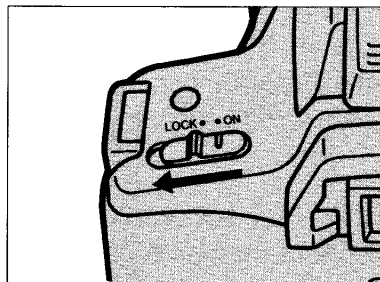
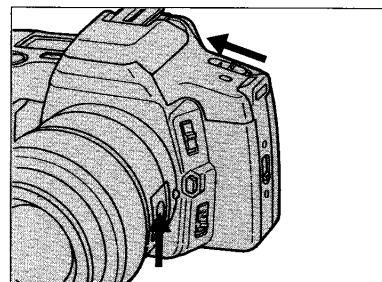
- ボディ表示部に"OFF AL"と表示されます。

- 再度同じ操作をすると、ボディ表示部に"On AL"と表示され、再びAF補助光が発光します。
- AF補助光を禁止すると、同時にセルフタイマー撮影直前のフラッシュ発光も禁止されます。

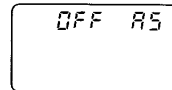
オートスタンバイズーム(ASZ)(AFズームXiレンズ使用時のみ)

上記のレンズをカメラに取り付けた場合、カメラを構えると、被写体までの距離にあわせてレンズが自動的にズーミングし、焦点距離を設定します。これをオートスタンバイズームといいます。

- ASZ(オートスタンバイズーム)の作動後でも、パワーズームによってズーミングすることができます。
- いったんパワーズームすると、カメラを目から離してから20秒間はASZが作動しません。

ASZ機能の解除

ASZ機能を解除し、レンズの自動ズーミングを止めることもできます。

メインスイッチをLOCKにします。

レンズボタンを押しながら、メインスイッチをONにします。

- ボディ表示部に"OFF AS"と表示されます。

- 再度同じ操作をすると、ボディ表示部に"On AS"と表示され、再びASZが働きます。

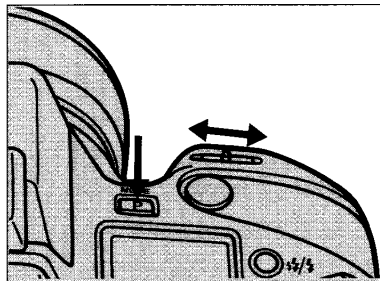
撮影モードとは

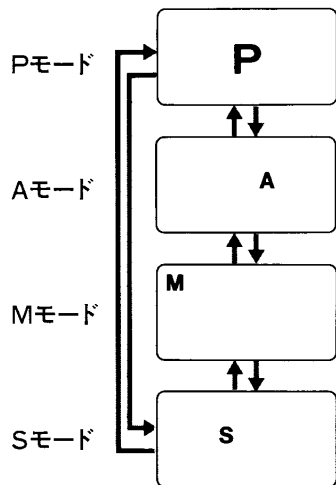
一眼レフカメラでは、フイルムに当たる光の量(露出)は、レンズの絞りとシャッター速度によって決定されます。ここまでの説明では、シャッター速度と絞りはカメラによって自動的に決定されていました。が、撮影モードを変えることによって、これらのどちらかひとつ、あるいは両方ともを手動で設定することができます。

このカメラには、4つの撮影モードがあります。

モード	説明
1.P(プログラム)モード	カメラが絞り値とシャッター速度を自動的に決めます。(ここまでの説明はすべてこのモードを基準にしています。)
2.A(絞り優先)モード	希望の絞り値を設定することができます。シャッター速度は自動的に設定されます。
3.S(シャッター速度優先)モード	希望のシャッター速度を設定することができます。絞り値は自動的に設定されます。
4.M(マニュアル)モード	シャッター速度と絞り値の両方を自由に設定することができます。

絞りとシャッター速度の効果については、55ページをご覧ください。

撮影モードの設定

プログラムセットボタンを押したまま、シャッター速度設定レバーを操作します。

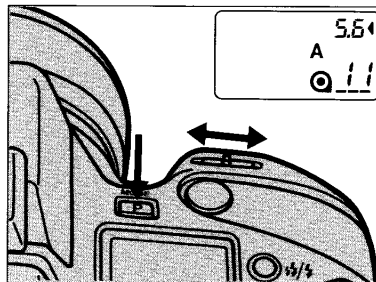
●ボディ表示部に現在のモードが表示されます。

●プログラムセットボタンから手を離すと、表示されているモードが設定されます。

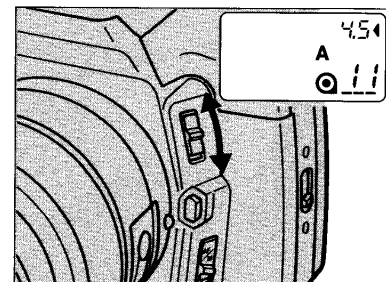
P(プログラム)モード撮影

プログラムモードでは、構図を決めて被写体にピントを合わせるだけで、適正露出になるように絞りとシャッター速度を設定します。
Pモードにするときは、プログラムセットボタンを押してください。

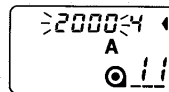
Pモードの撮影方法については、P.23の「基本的な撮影」をご覧ください。

撮影モード

A(絞り優先)モード

Aモードを選びます(P.42ページ参照)。

● ボディ表示部の絞り値の横の◀が点灯し、絞りが設定できることを示します。

絞り値設定レバーを操作して、希望の絞り値を設定します。

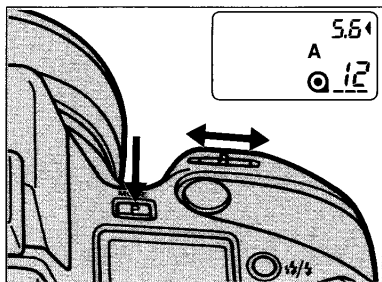
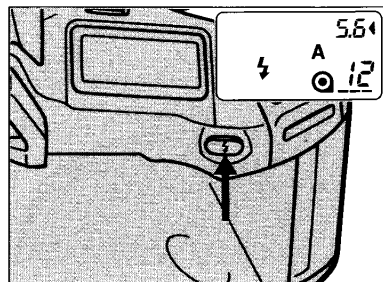
● 設定できる絞り値は、レンズによって異なります。

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● 表示部のシャッター速度とファインダー内の2つのオレンジランプ◆が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため適正露出が得られません。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。
● フラッシュが下がっているときにファインダー内のオレンジランプ▼が点滅すると、シャッター速度が遅くなります。フラッシュを使用するか、手ぶれしないよう三脚等に取り付けてください。

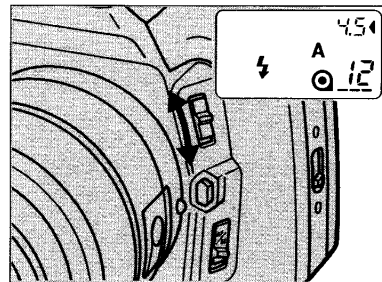
Aモード設定時は、フラッシュが上がっていれば必ず発光します(次ページ参照)。
フラッシュが必要でないときは押し下げてください。

撮影モード

Aモードフラッシュ撮影

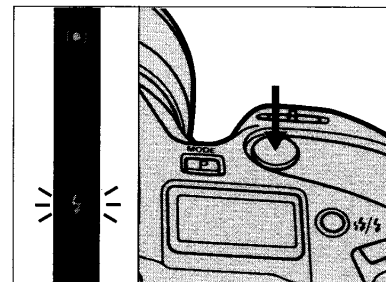
フラッシュが上がっていると、撮影のときフラッシュが必ず発光します。

撮影モードをAモードにします(42ページ参照)。

フラッシュポップアップボタンを押します。

- フラッシュが上がります。
- ファインダー内の▼が点滅し、フラッシュの充電が始まります。
- シャッター速度は、自動的に1/90秒に設定されます。

- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られて、写真の下部に影ができることがあります。
- ファインダー内のオレンジ色の▼が点滅しているときは、フラッシュが充電中です。ϟ または ϟϟ マークが点滅するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

絞り値設定レバーを操作して、希望の絞り値を設定します。

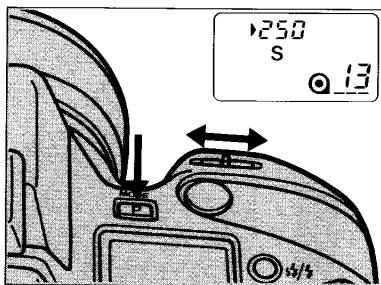
- 設定する絞り値によって光の到達距離(調光距離と言います)が以下のように変わります。

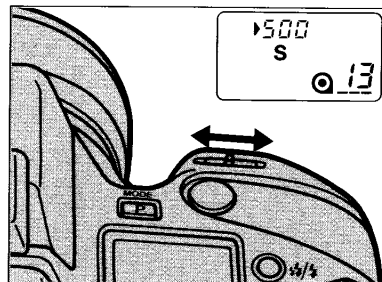
調光距離範囲(m)		
絞り値 ＼ フイルム感度	ISO 100	ISO 400
1.4	1.0〜8.4	1.0〜17.0
2	1.0〜6.0	1.0〜12.0
2.8	1.0〜4.2	1.0〜 8.4
4	1.0〜3.0	1.0〜 6.0
5.6	1.0〜2.0	1.0〜 4.2
8	1.0〜1.5	1.0〜 3.0
11	1.0〜1.0	1.0〜 2.0

絞りを11より絞り込む(16、22など)と、調光距離が1mより短くなり、露出アンダーの写真になります。

ファインダー表示部の ϟ または ϟϟ マークが点滅(=充電完了)していることを確認します。

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、ファインダー表示部の ϟ または ϟϟ がすばやく点滅して、適正露出が得られたことをお知らせします。点滅しないときは、絞り値を小さくする(3.5、4.5など)か、被写体にもう少し近づいて撮影しなおすことをおすすめします。

S(シャッター速度優先)モード

Sモードを選びます(42ページ参照)。

●ボディ表示部のシャッター速度の横の▶が点灯し、シャッター速度が設定できことを示します。

シャッター速度設定レバーを操作して、希望のシャッター速度を設定します。

●設定できるシャッター速度の範囲は、1/2000〜30秒です。

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●表示部の絞り値とファインダー内の2つのオレンジランプ◆が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため適正露出が得られません。点滅しなくなるまでシャッター速度を変更して下さい。

●バルブはMモードで設定してください。

Sモード設定時は、フラッシュが上がっていれば必ず発光します(次ページ参照)。フラッシュが必要でないときは押し下げてください。

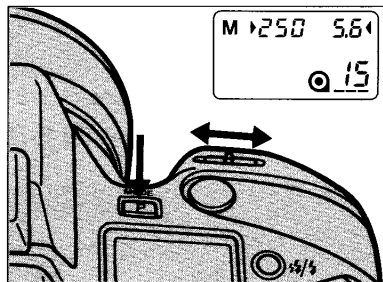
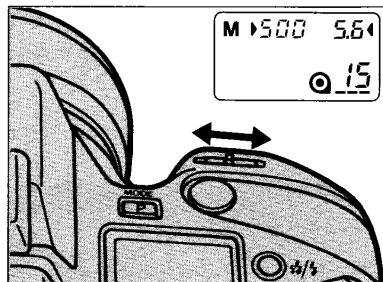
Sモードフラッシュ撮影

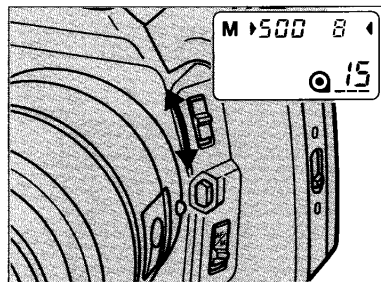
Sモードで撮影中にフラッシュ撮影したいときは、フラッシュポップアップボタンを押して、フラッシュを上げます。フラッシュが上がっていると、撮影のたびにフラッシュは発光します。

Sモードでフラッシュ使用時は、Pモードと同様、カメラが自動的に絞りとシャッター速度を設定します。(自分でシャッター速度を設定することはできません。)

●フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られて、写真の下部に影ができることがあります。

●ファインダー内のオレンジ色の▼が点滅しているときは、フラッシュが充電中です。ϟ または ϟϟ マークが点滅するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

M(マニュアル)モード

Mモードにします(42ページ参照)。

シャッター速度設定レバーを操作して、希望のシャッター速度を設定します。

- 設定できるシャッター速度の範囲は、1/2000〜30秒・bulbです。

絞り値設定レバーを使用して、希望の絞り値を設定します。

- 設定できる絞り値はレンズによって異なります。

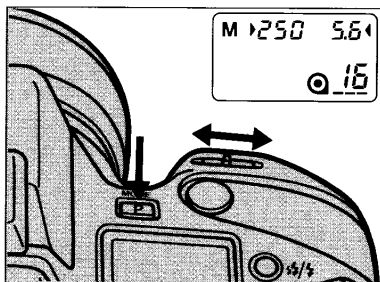
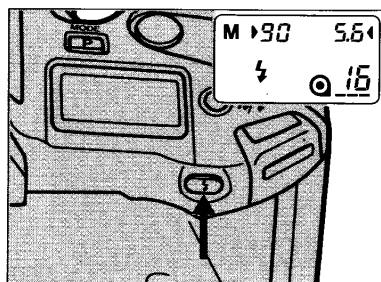
シャッターボタンを押し込んで撮影します。

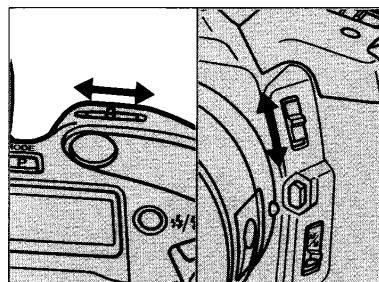
Mモードでは、ファインダー内のオレンジランプ(露出警告表示)が以下のように露出をお知らせします。

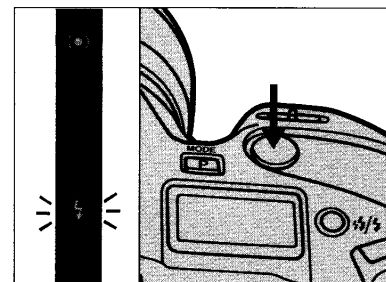
▲▼点灯	適正露出
▲点灯	露出オーバー 絞り値を大きくする(絞りを絞り込む)か、シャッター速度を速くしてください。(設定を変更しない場合は、NDフィルターを使用してください。)
▼点灯	露出アンダー 絞り値を小さくする(絞りを開ける)か、シャッター速度を遅くしてください。(設定を変更しない場合は、周囲を明るくするかフラッシュを使用してください。)
▲▼点滅	カメラによる測光は不可能

Mモード設定時は、フラッシュが上がっていれば必ず発光します(次ページ参照)。フラッシュが必要でないときは押し下げてください。

Mモードフラッシュ撮影

フラッシュが上がっていると、撮影のときフラッシュが必ず発光します。

撮影モードをMモードにします(42ページ参照)。

フラッシュポップアップボタンを押します。

- フラッシュが上がります。
- ファインダー内の▼が点滅し、フラッシュの充電が始まります
- シャッター速度を1/90秒より高速側にしていた場合、自動的に1/90秒に設定されます。

絞り値設定レバーで絞り値を、シャッター速度設定レバーでシャッター速度を設定します。

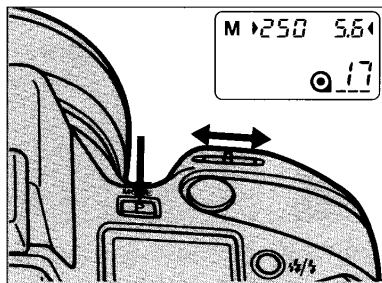
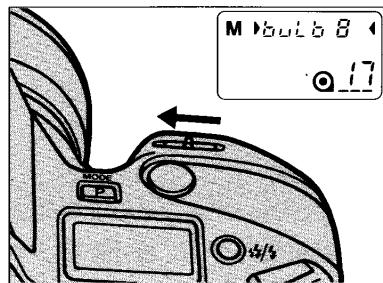
- 調光距離についてはAモードの説明をご覧ください。
- 設定できるシャッター速度は、1/90〜30秒・bulbです。

ファインダー表示部の ϟ または ϟϟ マークが点滅(=充電完了)していることを確認します。

シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 撮影後、ファインダー表示部の ϟ または ϟϟ マークがすばやく点滅して、適正露出が得られたことをお知らせします。

- フラッシュ撮影をする場合は、レンズフードを外してください。フラッシュ光が遮られて、写真の下部に影ができることがあります。
- ファインダー内のオレンジ色の▼が点滅しているときは、フラッシュが充電中です。ϟ または ϟϟ マークが点滅するまで、シャッターボタンに触れずにお待ちください。

バルブ撮影

バルブ撮影では、シャッターボタンを押し続けている間シャッターは開いたままになります。長時間の露出が必要なときに使用します。

撮影モードをMモードにします(42ページ参照)。

シャッター速度設定レバーを操作し、"bulb"と表示させます。

絞り値設定レバーを操作し、希望の絞り値を設定します。

ピントを合わせ、アイピースキャップを取り付けます。

シャッターボタンを押し込みます。必要とする露出時間中押し続けてください。

● シャッターボタンから指をはなすと、シャッターは閉じ、露光は終了します。

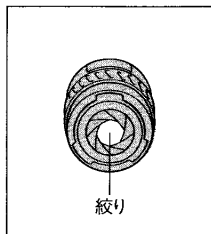
 ● カメラぶれを防ぐために、三脚をお使いください。

その他

絞りとシャッター速度

絞り

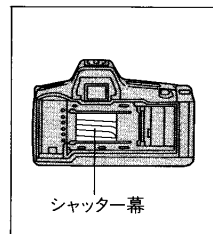
絞りとは、レンズ内で光が通る穴のことで、自由に大きさが変えられます。穴が大きいほど多量の光がフイルム面にあたり、小さいほど少量の光があたります。絞り値(F値)はこの穴の大きさを示す値のことです。F1.4、F2など数字が小さいほど穴は大きくなり、F19、22など大きいほど穴は小さくなります。

一般的に、絞り値が小さい(絞りの穴が大きい)ほど、ピントの合う範囲(被写界深度)は小さくなります。ポートレートなど背景をぼかして人物を浮き立たせたい場合は小さめの絞り値に、記念撮影など画面全体をはっきり撮りたい場合は大きめの絞り値に設定することをお勧めします。

絞り値が小さいとき(F1.7)

絞り値が大きいとき(F22)

シャッター速度

シャッター速度とは、カメラ内のシャッター幕が開いている時間のことで、この時間分だけフイルムに光があたります。シャッター速度が速いほど少量の光がフイルム面にあたり、遅いほど多量の光があたります。

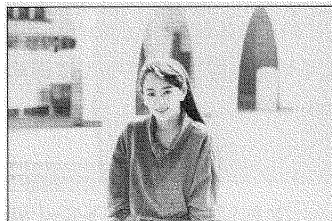
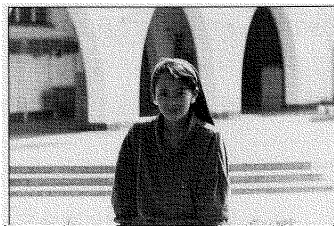
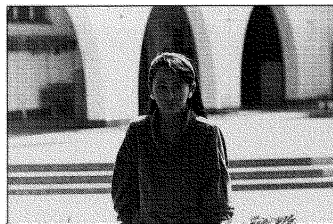
一般的に、シャッター速度が速いほど、動いている被写体でもくっきり止まって見えます。スポーツ写真など動きのあるものを止めたいときは速めのシャッター速度に、動きを表現したいときや流し撮りのときなどは遅めのシャッター速度に設定することをお勧めします。

シャッター速度が速いとき(1/1000秒)

シャッター速度が遅いとき(1/15秒)

●シャッター速度を遅くすると手ぶれしやすくなりますので注意してください。

露出

フイルムにあたる光の量(露出量)は、絞りとシャッター速度の組み合わせによって決まります。この光の量が適切な場合を適正露出、多い場合を露出オーバー、少ない場合を露出アンダーといいます。

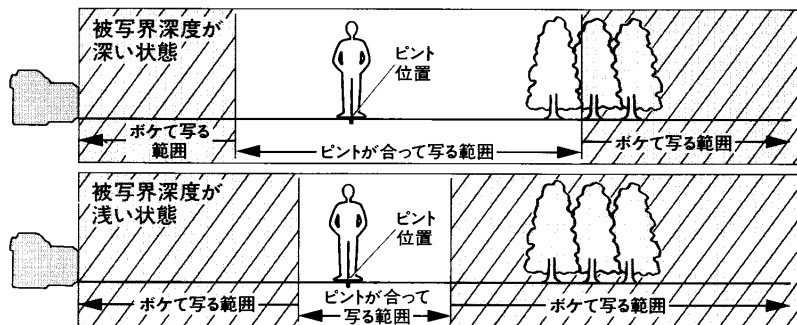
露出オーバー

適正露出

露出アンダー

適正露出を得るための絞り値とシャッター速度の組み合わせは、何通りもあります。あるシャッター速度と絞り値の組み合わせで適正露出が得られたとき、シャッター速度を速くして絞り値を小さくしても、同量の光がフイルムにあたります(適正露出が得られます。)たとえば、絞り値F11、シャッター速度1/125秒で適正露出が得られたとすると、同じ露出の得られる組み合わせは以下のようになります。プログラムモードでは、先ほど述べた絞り値とシャッター速度の効果と被写体状況とを照らし合わせ、もっとも適切な組み合わせをカメラが自動的に選択します。

絞り値	2.8	4	5.6	8	11	16	22	32
シャッター速度	1/2000	1/1000	1/500	1/250	1/125	1/60	1/30	1/15

被写界深度

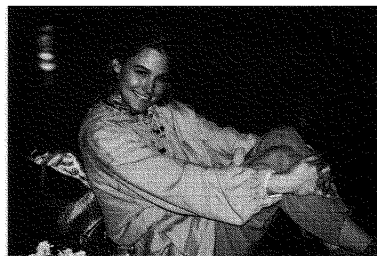
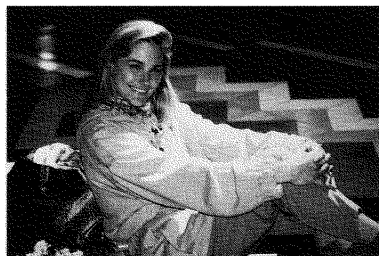
ある被写体にピントを合わせたとき、ピントを合わせた被写体はもちろん、その前後にもピントが合って写る範囲があります。この範囲を被写界深度といい、範囲が広いときに深度が深いと言い、範囲が狭いときに深度が浅いと言います。
この被写界深度には、次のような性質があります。

1. **焦点距離が一定の場合、絞り値が大きくなる(絞りが小さくなる)ほど被写界深度は深くなります。**
2. **絞り値が一定の場合、焦点距離が短い(広角レンズになる)ほど被写界深度は深くなります。**
3. **絞り値と焦点距離が一定なら、被写体までの距離が遠いほど被写界深度は深くなります。**
4. **ピントを合わせた被写体の前方深度は浅く、後方深度は深くなります。**

ワイヤレスフラッシュ撮影

プログラムフラッシュ3500Xiをお持ちの方へ

フラッシュをカメラに取り付けずに、カメラから離して発光させることもできます。通常はカメラとフラッシュをケーブルで接続して撮影しますが、プログラムフラッシュ3500Xiとこのカメラを組み合わせると、このようなケーブルを使わずに(ワイヤレス)、手軽にフラッシュをカメラから離すことができます。もちろん、露出はカメラが自動的に適正露出になるように制御します。

この撮影方法だと、被写体の真正面から照明する通常のフラッシュ撮影とは違い、陰影を付けて立体感を出したり、画面内に影が写らないようにすることができます。

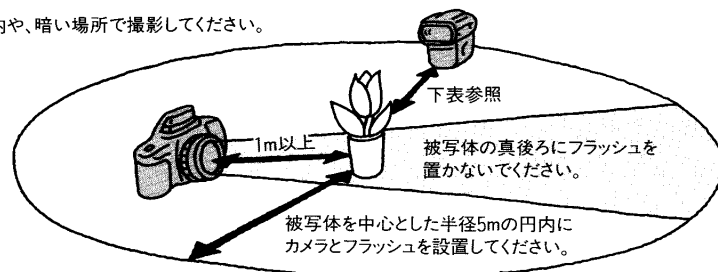
フラッシュをカメラに取り付けて撮影

フラッシュをカメラから離して撮影

※フラッシュ3500Xiのその他の操作方法については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

ワイヤレスフラッシュの撮影の原理

ワイヤレスフラッシュの発光は、

①内蔵フラッシュが信号発光する。
②その信号を受けて、カメラから離した3500Xiが本発光する。
③適正露出になれば、内蔵フラッシュが再び信号発光する。
④3500Xiが発光を止める。

という方法で制御されています。3500Xiが正しく内蔵フラッシュからの信号を受け取れるよう、以下の点にご注意ください。

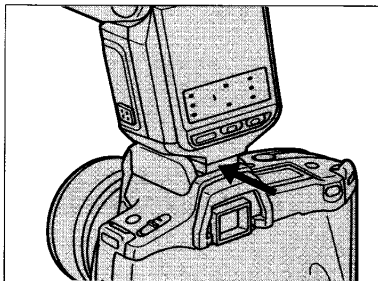
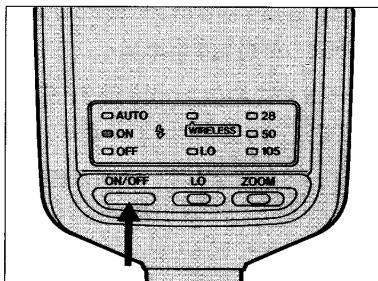
下記の範囲内にカメラとフラッシュを設定してください。

- 上記の場合でも、状況によっては内蔵フラッシュからの信号がうまく届かないことがあります。必ずテスト発光を行なってから撮影してください。(撮影方法参照)
- ワイヤレス設定時のフラッシュ調光距離(フラッシュ—被写体間の距離)は、右の表のとおりです。

調光距離範囲(m)		
絞り値 ＼ フイルム感度	ISO 100	ISO 400
1.4	2.0〜5.0	4.0〜5.0
2	1.4〜5.0	2.8〜5.0
2.8	1.0〜5.0	2.0〜5.0
4	0.7〜4.5	1.4〜5.0
5.6	0.5〜3.2	1.0〜5.0
8	0.4〜2.3	0.7〜4.5
11	0.4〜1.6	0.5〜3.2

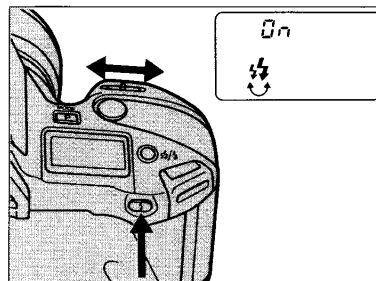
ワイヤレスフラッシュ撮影

設定方法

設定前に……

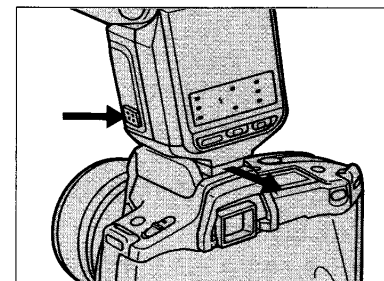
● フラッシュ電池室内のチャンネル切り替えスイッチが“CH1”になっていることを確認してください。(CH2だと3500Xiは発光しません。)

フラッシュのオートロックフットを、カメラのアクセサリーシューに止まるまでしっかり差し込みます。

フラッシュの発光ON/OFFボタンを押して発光ONにします。

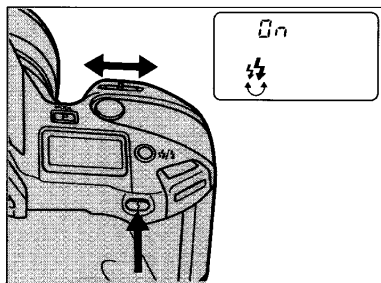
● 発光ON表示が点灯します。

● 発光OFFでも設定はできますが、フラッシュ背面の表示が点灯しません。

フラッシュポップアップボタンを押しながらシャッター速度設定レバーを操作し、表示部に“On”を点灯させます。

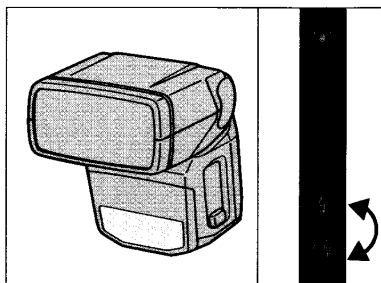
● ボディ表示部の が交互に点滅し、ワイヤレスフラッシュに設定されたことをお知らせします。

● フラッシュ背面のワイヤレス表示が点灯します。

● “Off”を点灯させると、ワイヤレス設定は解除されます。

フラッシュを取り外します。

撮影方法

カメラとフラッシュをワイヤレスフラッシュに設定します。

- シャッター速度は、P、Sモードでは1/45秒以下、Aモードでは1/45秒に設定されます。Mモードでは1/45秒以下に設定してください。

カメラ、フラッシュ、被写体を60ページのように設置します。

フラッシュとカメラ内蔵フラッシュの充電完了を確認します。

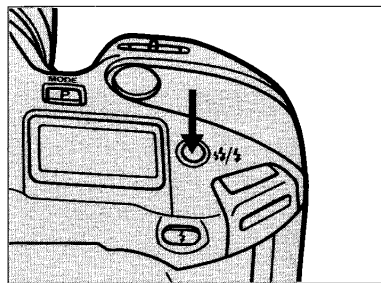
- フラッシュ…背面の ⚡ が点滅します。
  AF補助光が点滅します。
- 内蔵フラッシュ…ファインダー内の ⚡ と ⚡⚡ が交互に点滅します。

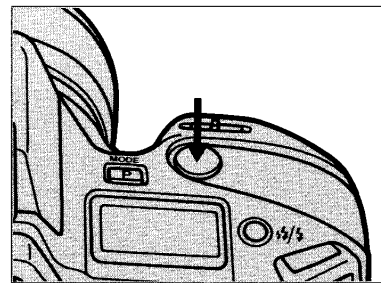
設定解除

ワイヤレス設定は以下のどれかの方法で解除できます。

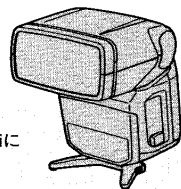
- 設定方法3のときに、表示部に"On"でなく"Off"を点灯させる。
- プログラムセットボタンを押す、あるいはメインスイッチをLOCKにする。(このときはフラッシュをカメラに取り付けていなくても解除できます。)

ワイヤレスフラッシュ撮影時の注意

- フラッシュのオートズーム機能は働きません。オートに設定している場合は、自動的に28mmの設定になります。
- ワイヤレスフラッシュ設定時は、Pモードでも常にフラッシュが発光します。

カメラのフラッシュプリ発光ボタンを押してテスト発光します。

- フラッシュが発光することを確認してください。
- 内蔵フラッシュが下がっているときは、フラッシュポップアップボタンでフラッシュを上げてからテスト発光してください。

再度充電完了を確認した後、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 適正露出が得られると、ファインダー表示部の ⚡ マークが約2秒間点滅します。

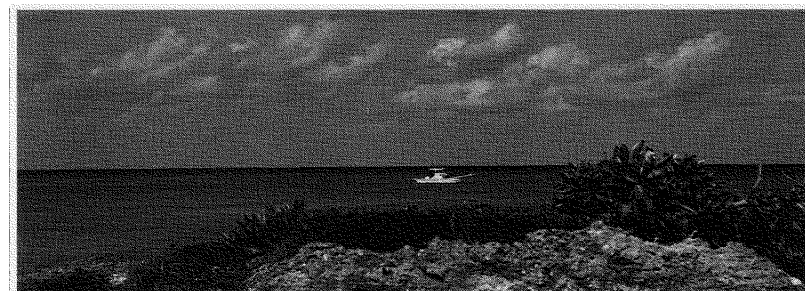
- ワイヤレスオフカメラフラッシュ撮影時には、プログラムフラッシュ3500Xiに付属のスタンドを取り付けると便利です。

光量比制御撮影

カメラから離した3500Xiとカメラの内蔵フラッシュを両方発光させることもできます。このとき、光量の比は2:1(3500Xi:内蔵フラッシュ)になります。
ワイヤレスフラッシュの状態で、カメラのフラッシュポップアップボタンを押しながら、シャッターボタンを押し込んで撮影してください。

パノラマ撮影

パノラマアダプターセット(別販売)をこのカメラに取り付けると、下のようなパノラマ写真を気軽に楽しむことができます。パノラマ写真のプリントサイズは90×250mm(標準)です。

通常の撮影

この範囲が写ります。

パノラマ撮影

アクセサリーについて

1.レンズ

- ミノルタαレンズ以外のレンズ(MDレンズやMCレンズなど)はご使用になれません。
- 焦点距離28mm未満の広角レンズおよび下記のレンズ使用時には、写真に影ができるため、内蔵フラッシュによるフラッシュ撮影はできません。

AFアポテレ300mm F2.8　　ハイスピードAFアポテレ300mm F2.8
AFアポテレ600mm F4　　ハイスピードAFアポテレ600mm F4

- 下記のレンズ使用時には、撮影距離によっては内蔵フラッシュ光がさえぎられ、写真に影ができることがあります。詳しくは、最寄りの当社サービスセンターまたはサービスステーションまでお問い合わせください。

AFズームXi35-200mm F4.5-5.6　　AFズーム28-85mm F3.5-4.5
AFズーム28-135mm F4-4.5

2.フラッシュ

- Xシリーズのフラッシュおよびそれ以前に発売されたフラッシュはご使用になれません。
- iシリーズフラッシュ(プログラムフラッシュ5200i、3200i、2000i)はそのままご使用になれます。5200iでマニュアル発光などの設定をする場合は、カメラをフラッシュモードに合う撮影モードに設定してから、フラッシュの設定をしてください。
- AFシリーズフラッシュ(4000AF、2800AF、1800AF、マクロ1200AF)をお使いになる場合は、FS-1100(別売)を使って取り付けてください。この場合、フラッシュのAF補助光は発光しません。また詳細は以下のようになります。

P(S)モード…フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。シャッター速度と絞り値は自動的に設定されます。自動発光は行われません。フラッシュはTTLダイレクト測光により自動調光されます。
Aモード…フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。シャッター速度は自動的に1/90秒に設定されます。フラッシュはTTLダイレクト測光により自動調光されます。
Mモード…フラッシュの電源スイッチをONにしてご使用ください。絞りとシャッター速度(1/90-30秒、bulb)を自由に設定することができます。フラッシュはTTLダイレクト測光により自動調光されます。

3.その他

- このカメラでは、アングルファインダー、マグニファイヤーは使用できません。

故障かな?…と考える前に

何か異常が生じた場合は、下記のことをお調べください。それでも具合が悪い場合は、お近くのサービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。(本書裏面参照)

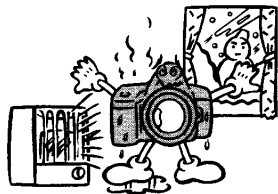
症状	点検項目	処置	ページ
表示が出ない	電池の容量はありますか?	新しい電池と交換してください	13
	電池の向きが間違っていませんか?	表示に従って正しく入れてください	12
絞り値が−−になる	レンズが正しく取り付けられていますか?	カチッとロックがかかるまで回して取り付けてください	14
	カメラまたはレンズの信号接点が汚れていませんか?	清潔な乾いた布で清掃してください	—
	AZ/MZスイッチがMZになっていませんか?	AZにしてください	14
パワーズームが作動しない	AZ/MZスイッチがMZになっていませんか?	AZにしてください	14
HELP表示が出る	フイルムの巻き上げ、巻き戻しに異常が出ています	電池を一度取り出し、入れ直してください	—
オートフォーカスが作動しない	ボディ表示部にM. FOCUSがでていませんか?	フォーカスモードスイッチを一度押し下げ、オートフォーカスに切り替えてください	37
ピントが合いにくい	オートフォーカスの苦手な被写体にピントを合わそうとしていませんか?	パワーフォーカスまたは手動でピントを合わせてください	33

症状	点検項目	処置	ページ
フラッシュ撮影した写真の下部が暗い	レンズフードをつけたまま撮影しませんでしたか?	フラッシュ撮影の際は、レンズフードを外してください	26
	内蔵フラッシュに向いていないレンズを使用しませんでしたか?	他のレンズに変えるか、別売のフラッシュを使用してください	66
フラッシュ撮影した写真の全面が暗い	被写体との距離が遠すぎませんでしたか?	被写体との距離に注意して撮影してください	46
フラッシュが発光しない	Pモード:ボディ表示部のフラッシュモード表示が消えていませんか?	フラッシュポップアップボタンで AUTO か AUTO を出してください	—
	ASMモード:フラッシュが下がっていませんか?	フラッシュポップアップボタンでフラッシュを上げてください	—
シャッターボタン半押しでフラッシュが発光してしまう	ピント合わせのために、AF補助光としてフラッシュが発光することがあります(発光を止めることもできます)		39
フラッシュ撮影でピントが合わない	被写体までの距離が遠すぎませんでしたか?	AF補助光の届く範囲で撮影してください	39
	反射率の低い被写体(黒っぽいものなど)を撮影しませんでしたか?	ほぼ同距離にある別のものでフォーカスロックしてください	31
ワイヤレスフラッシュが発光しない	フラッシュの電池室内のチャンネルがCH2になっていませんか?	CH1にしてください	61
カメラが作動しない	カメラのマイクロコンピュータの特性として、極めてまれにこのようなことがあります。電池を入れ直してください		12

取り扱い上の注意

カメラは精密機械です。取り扱いにはご注意ください。

このカメラの使用温度範囲は－20～50℃です。

- 日付写し込み機能は、0～50℃の範囲で使用することができます。0℃以下では写し込めないことがあります。

- 直射日光下の車の中など、極度の高温下にカメラを放置しないでください。故障の原因になります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。

このカメラは防水構造ではありません。

- 万一水にぬれたときは乾いた布で水をふき取り、すみやかに本書裏面に記載の当社サービスセンターまたはサービスステーションにお持ちください。
- カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。例えば、スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後、室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。

このカメラの内部には高電圧回路がありますので、絶対に分解しないでください。

- 故障したときは、必ず当社サービスステーションにお持ちください。

手入れのしかた

カメラボディを清掃するとき

柔らかいきれいな布で軽くふくか、市販のブロアブラシでホコリを吹き飛ばしてください。とくに海辺で使った後は、真水を少量浸した布で塩分をふき取り、乾いた布でよくふいて乾かしてください。

レンズやフイルム室内を清掃するとき

ブロアでほこりを除き、柔らかいきれいな布で軽く拭き取ってください。汚れがひどい場合は、当社サービスセンター、サービスステーションにお持ちください。

- シンナー、ベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使わないでください。
- 汚れがひどいときは、当社サービスステーションにお持ちください。

保管のしかた

カメラケースを外し、風通しの良いところに置いてください。湿気の多い時期には、ポリエチレン袋などに乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。長期間使用しない場合は、フイルムと電池を抜いてください。

- 防虫剤の入ったタンスなどには入れないでください。
- 長期間使用しない場合は、カビがはえたり、故障の原因になったりすることがあります。ときどきシャッターを切るようにし、また使用前には整備点検されることをお勧めします。

空港の手荷物検査を受けるとき

フイルムがカメラに入っているときは、X線でフイルムが感光することがあります。検査官にフイルムの入ったカメラであることを伝えて、X線の照射を避けてください。

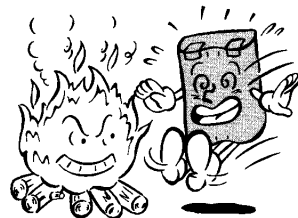
アフターサービスについて

1. 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
2. アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、ご覧ください。

電池に関する注意

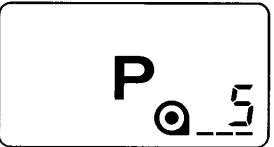
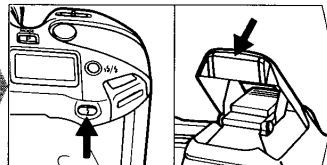
- リチウム電池は低温下の温度特性にも優れていますが、0°C以下ではやや電池特性が低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラや予備の電池を保温しながら撮影してください。なお、低温のため性能低下した電池でも常温に戻せば性能は回復します。

- 長期間使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。
- コイン型電池は幼児の手の届かないところへ保管してください。万一飲み込んだときは、直ちに医師にご相談ください。
- 電池製造後の経過期間により、新品電池でも撮影可能本数が、性能表と異なる場合があります。また長期間の旅行や、寒いところで撮影するときは、予備の電池をご用意ください。
- 発熱、発火、破裂等のおそれがありますので、絶対に電池を火の中に投入したり、ショート、分解、加熱しないでください。

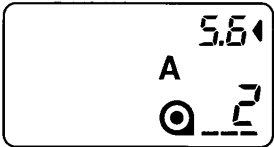
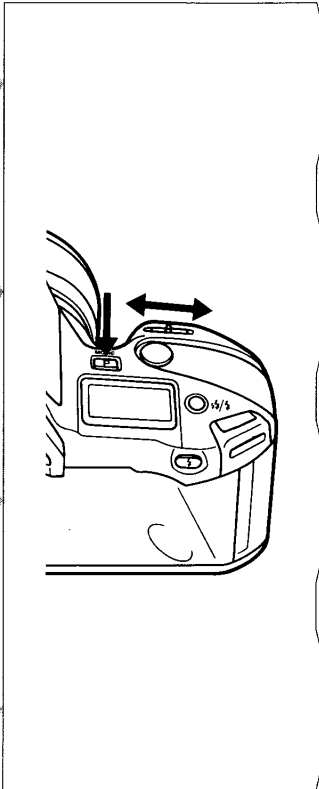
主な性能

項目	内容
カメラタイプ	マイクロコンピュータ制御フラッシュ内蔵35mmAE一眼レフオートフォーカスカメラ
使用フイルム	パトローネ入り35mmフイルム(135型) 画面サイズ:24×36mm ISO25～5000(1/3EVステップ) フラッシュ使用時はISO25～1000
フイルム感度設定	DXコード付フイルム使用時、フイルム感度自動設定
レンズマウント	ミノルタAマウント
使用レンズ	ミノルタαレンズ
オートフォーカス方式	方式:TTL位相差検出方式 検出素子:CCDラインセンサー 検出範囲:EV－1～18(ISO100) AF制御自動切り替え 動体予測フォーカス制御 ワイドフォーカスエリア パワーフォーカス可能 マニュアルフォーカス可能 フォーカスロック可能
オートズーム	AFズームXiレンズ使用時 オートスタンバイズーム
AF補助光	内蔵フラッシュによる補助光 低輝度かつ低コントラスト時自動発光 専用フラッシュ装着時フラッシュの内蔵AF補助光発光(LED)に自動切り替え 作動距離範囲:約1～5m
撮影方式	プログラムAE(Pモード エキスパートプログラム) 絞り優先AE(Aモード) シャッター速度優先AE(Sモード) マニュアル
測光方式	TTL開放測光 8分割ハニカムパターン測光(測光値ファジイ演算) フラッシュ使用時はTTLダイレクト測光 受光素子:多分割ハニカムパターンSPC(シリコンフォトセル) フラッシュ光調光用SPC 測光範囲:EV1～20
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター シャッター速度:1/2000～30秒・バルブ(露出時間は電池容量により制限) フラッシュ同調速度:1/90秒より長秒時
内蔵フラッシュ	ボディ内蔵 ポップアップ方式 ガイドナンバー:12 照射角:焦点距離28mmをカバー 充電時間:2秒(カメラと電源を共用) 赤目軽減用プリ発光可能 専用フラッシュ装着時 内蔵フラッシュ自動OFF ワイヤレスフラッシュ対応
フラッシュ撮影方式	Pモード:必要時フラッシュ自動発光(アドバンスオートフィルインによる日中シンクロ) 強制発光/発光禁止選択可能 Aモード:1/90秒自動設定 Sモード:1/90～30秒 Mモード:1/90～30秒手動設定
ボディ表示	撮影モード・シャッター速度表示・絞り値表示・セットマーク・マニュアルフォーカス表示・電池容量・セルフタイマー表示・フラッシュモード表示・パトローネマーク・フイルムマーク・フイルムカウンター
ファインダー表示	フォーカスフレーム・フォーカス表示・露出警告表示・フラッシュモードランプ
ファインダー	ルーフミラー式一眼レフレックス方式 全面アキュートマット 視野率:90% 倍率:0.75倍(50mmレンズ、∞位置) 視度:－1diopt.
フイルム給送	オートローディング(1コマ目まで自動送り) オートリターン(24枚撮りフイルムを約12秒で巻き戻し 巻き戻し自動停止) 途中巻き戻し可能
プログラムセットボタン	Pモード・オートフォーカスモード・フラッシュ自動発光
その他の機能	セルフタイマー(作動時間10秒 途中解除可能) オートロックアクセサリーシュー アイピースカップ 日付・時間写し込み可能
使用電池	6Vパックリチウム電池(2CR5)1個 メインスイッチON時に自動容量チェック(4段階表示) CR2025電池1個(クォーツデート用)
撮影可能本数	フラッシュなし:約60本 フラッシュ使用率50%:約25本(24枚撮りフイルム、新品電池使用時)
大きさ・重さ	146.5(幅)×92(高さ)×64(奥行き)mm 435g(電池別、クォーツデート用電池含む)

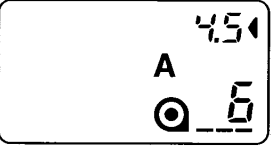
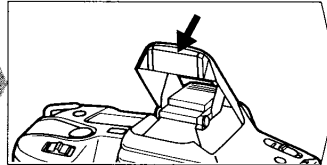
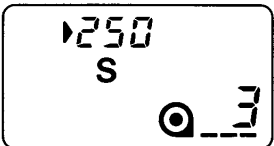
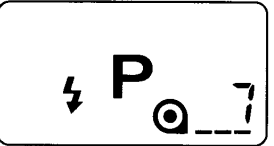
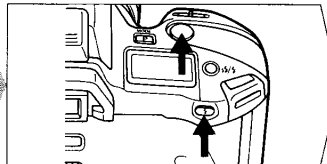
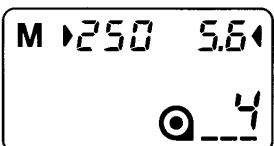
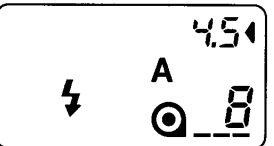
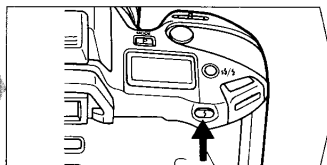
本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

○○○したいときは…

Pモード(全自動)にしたい

Aモードにしたい

Sモードにしたい

Mモードにしたい

フラッシュ発光を止めたい（Pモード）

フラッシュ発光を止めたい（ASMモード）

フラッシュを発光させたい（Pモード）

フラッシュを発光させたい（ASMモード）

○○○したいときは…

プリ発光（赤目軽減）させたい
AUTO P 9
シャッターボタン半押しでのフラッシュ（AF補助光）を止めたい
OFF AL
ASZを解除したい
OFF AS
セルフタイマーにしたい
AUTO P 12
電池の容量を確認したい
AUTO P 13
フィルムを途中で巻き戻したい
0
ピントを固定させたい
ピントを固定させたい
（XIレンズのみ、